

日韓スポーツ交流の成立過程について

古園井 昌喜*

The process of the establishment for sports exchange between Japan and Korea

Masaki KOZONOI*

本論文は、本学客員特任教授古園井昌喜氏が、昨年 3 月刊行のスポーツ学部研究紀要創刊号に原著論文として投稿するため執筆されていたが、平成19年 1 月逝去されたため、書き残された原稿を未完原稿として、収集された資料を文献目録として掲載し、日韓スポーツ史研究の一助となればとまとめたものである。

(スポーツ学部研究紀要編集委員会委員長記)

1. はじめに

日韓スポーツ交流には両国の何らかの思惑があった。スポーツの発展には、必ずライバルが存在し、古くは、明治期の早慶、それがさらに発展、東京六大学のリーグなど、地方レベルでも数多くの都市対抗戦のようなスポーツイベントが栄えた都市が存在する。わが国のスポーツは、海外にまで遠征した大学チーム、実業団チーム、それからプロチーム等多くのスポーツ団体があるが、それらの発展は定期戦からである。近隣のレベルが同じ位のチーム対抗戦が役割を果たしている。同じようにこの視点を拡大し、地域をアジアに絞ると、隣国韓国との関係は、まさに視野を拡大した地域の対抗戦なる要素を最初から十分に持っていた。戦前の忌まわしい関係を論ずることはここでは目的ではない。むしろ、日韓のスポーツ交流に尽力した2002年のワールドカップ共催は、この地域へ各国対抗のスポーツの在り方に変化を及ぼしているかのように見られる。

まず相手の文化がメディアの発達によりいつでも提供されている。中でもスポーツイベントは、特に韓国との交流は群を抜いて日本の大衆文化として輸入され、それらの過程から相手側を正しく知ろうとしている。

この傾向は今後ますます拡大されるであろう。

特にスポーツは、世界規模の大会を共催し、世界から注目されるスポーツマーケットになる可能性がある。その他のスポーツを含めた今日の隆盛を、一国での開催に最後まで固執した日本サッカー界はその後のアジアの発展ぶりをどう考えるか。

しかし、例えば言語を理解しないと相手国の内情の理解が可能でないというのは、スポーツ界において多くの人々にそれを要求するにはまだ未成熟の域である。本論では言語の課題を論じることは目的ではない。スポーツ界でそれをやると日本の剣道と韓国のクムドのどちらが剣道の発祥地であるか等、本筋でない難題に遭遇する。

李相伯氏のように、戦後自国でIOC委員を務めた先人の先見を忘れてならない。現在でも李相伯バスケット大会は続けられている。このように個別的、種目別団体的に交流した事例は何らかの個人的な働きかけがあったと推測される。詳細に触れることは、本論の意とするところではないので他に譲る。

本論の主張は、戦前派の人々が交流する場をどのように定め、次世代の若人達がどのようなスポーツ交流をなしたかである。このことは意外に研究対象とされ

*九州共立大学スポーツ学部

*Kyushu Kyoritsu University Faculty of Sports
Science

ていない。恐らく交流成立の経過に関する資料が出ないのもその原因であろう。

2. 方法

前述したように昭和40年前後は、日韓の内では李ラインによる漁業権をめぐる政治的交渉が凄まじく極めて陰悪であった。このような両国の課題を解決すべく外交的交渉によって日韓条約が締結された。スポーツに関する一項は文化的交流の項に該当する。

ここで注目されるのは、各種目団体を通しての交流は日本体育協会国際部に一括して欲しい旨韓国側から公式に要求されている。これらの資料は日本体育協会時報に記録として残されている。本論はこの過程を明らかにしようと試みる。むしろ韓国側の熱意によって開かれたような部分もある。

先述した各種目団体でのスポーツ交流は特に、その地域に日韓に関するスポーツの先人が、何らかの目的で実施したものであろうし、ローカル経済の浮上策のビジョン上の目的があったに相違ない。したがって全国的レベルのスポーツイベントとして成立し得ない。むしろ、大韓体育会と日本体育協会の積極交流（相手国に行き関係者と詰める）があったことと、相手国の立場を尊重し、イベントの配慮を高めたに違いない。先述した日体協時報には、韓国側の動きが、よく読み取れるよう残されている。この資料を主に使わせて頂いた。

日本文での表現でその国側の一方的解釈で国際的外交が成立するはずはない。故に今となってはこの資料は貴重であると考えられる。今後の課題として、大韓体育会の記録と符号化し検討することが残されている。本論では紙数の関係で割愛せざるを得ない。

No.	資料名	参照頁	見出し	補足・説明	備考
1	SPORTS IN JAPAN	8	Japan-Korea Junior Sports Meet		SPORTS IN JAPAN '88
2	SPORTS IN JAPAN	12	Japan-Republic of Korea Junior Exchange Meet		SPORTS IN JAPAN '89
3	エシヨイスポート 1989	21	中日韓ジュニア交流競技会への参加	日韓で始まった新たなスポーツ交流	1989年版
4	エシヨイスポート 1999	21	平成10年度事業等実施一覧	開催期日等の詳細	1999年版
5	エシヨイスポート 2000	22	広がる友情・日韓スポーツ交流	日韓中ジュニア交流競技会を開催	2000年版
6	エシヨイスポート 2000	22	平成11年度事業等実施一覧	開催期日等の詳細	2000年版
7	エシヨイスポート 2001	19	広がる友情・日韓スポーツ交流	韓中日ジュニア交流競技会へ参加	2001年版
8	エシヨイスポート 2001	22	平成12年度事業等実施一覧	開催期日等の詳細	2001年版
9	エシヨイスポート 2002	22	広がる友情・日韓スポーツ交流	中日韓ジュニア交流競技会への参加	2002年版
10	エシヨイスポート 2002	24	平成13年度事業等実施一覧	開催期日等の詳細	2002年版
11	エシヨイスポート 2003	20	広がる友情・日韓スポーツ交流	日韓中ジュニア交流競技会を開催	2003年版
12	エシヨイスポート 2003	24	平成14年度事業等実施一覧	開催期日等の詳細	2003年版
13	エシヨイスポート 2004	22	広がる友情・日韓スポーツ交流	韓中日ジュニア交流競技会へ参加	2004年版
14	在日本大韓体育会史		在日本大韓体育会史 1953～1991年	韓日ジュニア交流 WPCサッカー種事地区予選・韓日高校スポーツ交換・転地訓練の訪日・近隣諸国との相互理解と競技力向上に役立つように	資料発行：1992年9月
15	スポーツハンドブック	16	昭和43年(1968年)からは日韓ジュニア交流競技会を開催		
16	第1回日韓スポーツ交流事業(日韓スポーツ交流事業への招待)		Japan-Korea Youth Sports Exchange Meet, 1997	1997.8.18～8.24 愛人・日本人用	発行：(財)日本体育協会
17	第1回日韓スポーツ交流事業報告書(平成9年度)		Japan-Korea Sports Exchange Meet, 1997	第1部 青少年スポーツ交流事業、第2部成人スポーツ交流事業	資料発行：1998年10月
18	第5回日韓スポーツ交流事業報告書		Japan-Korea Sports Exchange Program 2001	第1部 青少年スポーツ交流、第2部成人交換交流	資料発行：2002年3月
19	第6回日韓スポーツ交流事業報告書		Japan-Korea Sports Exchange Program 2002(2002年 日韓国民交流年記念事業)	第1部 青少年スポーツ交流、第2部成人交換交流	資料発行：2003年3月
20	第7回日韓スポーツ交流事業青少年スポーツ交流		日本代表団派遣ハンドブック(国庫補助事業／日韓共同未来プロジェクト事業)	期間：2003年9月16日～22日、訪問地：全羅北道・全州市	資料発行：2005年1月
21	第7回日韓スポーツ交流事業報告書		Japan-Korea Sports Exchange Program 2003(文科省国庫補助／日韓共同未来プロジェクト事業)	期間：2004年8月16日～22日、訪問地：忠清北道	資料発行：2004年3月
22	第8回日韓スポーツ交流事業青少年スポーツ交流		日本代表団派遣ハンドブック(国庫補助事業／日韓共同未来プロジェクト事業)	期間：2005年1月24日～30日、訪問地：ソウル特別市、江原道	資料発行：2005年1月
23	第8回日韓スポーツ交流事業青少年スポーツ交流		日本代表団派遣ハンドブック(国庫補助事業／日韓共同未来プロジェクト事業)	期間：2004年5月28日～6月3日、訪問地：広州広域市、ソウル特別市	資料発行：2004年5月
24	第8回日韓スポーツ交流事業報告書		Japan-Korea Sports Exchange Program 2004(文科省国庫補助／日韓共同未来プロジェクト事業)	第1部 青少年(夏季)、第2部 青少年(冬季)、第3部 成人交流、第4部 地域交流	資料発行：2005年3月
25	第9回日韓スポーツ交流事業報告書		日本代表団派遣ハンドブック(国庫補助事業／日韓共同未来プロジェクト事業)	期間：2005年5月13日～19日、訪問地：忠清南道、ソウル特別市	資料発行：2005年4月
26	第9回日韓スポーツ交流事業成人交換交流		日本代表団派遣ハンドブック(国庫補助事業／日韓共同未来プロジェクト事業)	期間：2005年8月21日～22日、訪問地：済州道	資料発行：2005年8月
27	第9回日韓スポーツ交流事業青少年夏季スポーツ交流事業		日本代表団派遣ハンドブック(国庫補助事業／日韓共同未来プロジェクト事業)	期間：2005年8月16日～22日、訪問地：忠清北道	資料発行：2005年8月
28	日韓高校スポーツ交換競技会		日韓ジュニア交流競技会(1981年～1991年合本)	経過：フログラム・名簿・記録・報告書・その他	他に分冊冊子保管有り
29	日韓ジュニア交流競技会		日韓ジュニア交流競技会	経過：フログラム・名簿・記録・報告書・その他	他に分冊冊子保管有り
30	記録報告書		日韓ジュニア交流競技会	経過：フログラム・名簿・記録・報告書・その他	他に分冊冊子保管有り
31	日本・韓国青年親善交流事業報告書(第10回)		日本代表団派遣ハンドブック(国庫補助事業／日韓共同未来プロジェクト事業)	期間：2005年8月16日～22日、訪問地：済州道	資料発行：1981年10月
32	日本・韓国青年親善交流事業報告書(第3回)		日本代表団派遣ハンドブック(国庫補助事業／日韓共同未来プロジェクト事業)	期間：2005年8月16日～22日、訪問地：済州道	資料発行：1981年10月
33	日本体育協会75年史	159	アジア地域ジュニア交流事業の実施	総理府青少年対策本部による日本・韓国青年親善交流事業 1986年	資料発行：1997年3月
34	日本体育協会75年史	159	日韓高校交流競技会の実施 昭和43年(1968年)8月～昭和51年(1976年)8月	日韓ジュニア交流競技会	資料発行：1990年3月
35	日本体育協会75年史	160	韓国との交流協定	昭和51年(1976年)9月大韓体育会と	1974年は中止
36	日本体育協会75年史	198	昭和40年(1965年)大韓体育会幹部の複数回来日と当会役員の訪韓		
37	日本体育協会75年史	204	昭和43年(1968年)8月日韓高校スポーツ交換競技会		
38	日本体育協会75年史	206	昭和44年(1969年)8月日韓高校スポーツ交換競技会		
39	日本体育協会75年史	211	昭和45年(1970年)8月日韓高校スポーツ交換競技会		
40	日本体育協会75年史	215	昭和46年(1971年)8月日韓高校スポーツ交換競技会		
41	日本体育協会75年史	218	昭和47年(1972年)8月日韓高校スポーツ交換競技会		
42	日本体育協会75年史	219	昭和48年(1973年)8月日韓高校スポーツ交換競技会		
43	日本体育協会75年史	222	昭和50年(1975年)8月日韓高校スポーツ交換競技会		
44	日本体育協会75年史	224	昭和51年(1976年)8月日韓高校スポーツ交換競技会		

No.	資料名	参照頁	見出し	補足・説明	備考
45	日本体育協会75年史	239	昭和57年(1982年)日韓ジュニア交流競技会への派遣		
46	日本体育協会75年史	893	山口県体育協会		
47	日本体育協会75年史	966	1966年6月 オリンピックの出場権 韓国サッカーチームとの試合(後楽園)	～897頁までの記述に於いて日韓交流の記載無し	
48	日本体育協会75年史	967	1969年12月 サッカーのオリンピック地区予選(後楽園)		
49	日本体育協会75年史	973	1981年9月 オリンピック名古屋招致リクルに敗れる	韓国に得票数で敗退	
50	体協時報 1958年	12	日韓親善女子バスケットボール大会	日韓親善女子バスケットボール大会実施スケジュールに關する記述	
51	体協時報 1965年5・6月号	27	昭和40年度 競技団体の海外派遣・外国選手招待予定	6月日韓親善大会(ラオス)／8月(派遣)・9月(招待)男女高校チーム日韓親善大会(バスケットボール)	
52	体協時報 1965年10月号	27	体協の動き	日韓スポーツ交流に關する件	
53	体協時報 1965年11月号	47	事務局日誌	10月19日李相相IOC委員来日(10月27日帰国)	
54	体協時報 1965年12月号	89	体協の動き	大韓体育会の要請により日体協理事を韓国に派遣	
55	体協時報 1965年12月号	96	事務局日誌	11月22日日韓スポーツ交流実施団体打ち合わせ	
56	体協時報 1966年1月号	46	体協の動き	韓国より韓国の局長の報告	
57	体協時報 1966年2月号	37	金大韓体育会専務理事来日	両国の交流について懇談	
58	体協時報 1966年3月号	39	事務局日誌	1月13日日韓スポーツ交流に關する高野連との打合せ	
59	体協時報 1966年4月号	31	体協の動き	今後、日・韓スポーツ交流に...それぞれ担当理事をおく	
60	体協時報 1966年4月号	33	体協の動き	日韓スポーツ交流に關する件	
61	体協時報 1966年5月号	39	李相相氏死去	4月14日死去に対する各氏の弔辞	
62	体協時報 1966年6月号	45	事務局日誌	5月24日交流の件、韓国大使館ラッジュ・高陸連会長、他と会談	
63	体協時報 1966年7月号	11	日韓高校交歓競技会の開催決まる		
64	体協時報 1966年7月号	28	体協の動き	李相相氏追悼会の開催に關する件	
65	体協時報 1966年8月号	16	日韓高校交歓競技会は取りやめ	大韓体育会からの突然の通告	
66	体協時報 1966年8月号	25	昭和40年度の本会事業と諸決算報告	アジア諸国との国際交流促進	
67	体協時報 1966年8月号	46	体協の動き	日韓高校スポーツ交歓競技会(仮称)に關する件	
68	体協時報 1966年8月号	48	事務局日誌	7月16日日韓高校スポーツ交歓競技会第3回連絡協議会／19日大韓体育会より日韓高校交歓競技会中止の重報受領	
69	体協時報 1966年9月号	29	体協の動き	日韓高校スポーツ交歓競技会に關する件	32頁にも関連記事有り
70	体協時報 1966年9月号	31	日韓高校スポーツ交流に對する韓国よりの断り状(原文)		
71	体協時報 1966年10月号	24	故李相相氏に對3等旭日中綬章	未亡人を迎え勲章の伝達式と追悼会を挙行 9月1日故李相相追悼会下打合せ／14日故李相相氏ご遺族との会食 ／16日故李相相氏追悼式・21日故李相相氏ご遺族帰国	
72	体協時報 1966年10月号	42	事務局日誌	日韓高校スポーツ交歓競技会について	
73	体協時報 1968年10月号	45	議事録から	ソウルで日韓高校交歓競技会	
74	体協時報 1968年11月号	33	体協より	日韓高校スポーツ交歓競技会に關する件	
75	体協時報 1968年6月号	29	議事録から	日韓高校スポーツ交流関係について・報告	31頁にも関連記事有り
76	体協時報 1968年7月号	24	日韓高校スポーツ交歓競技会	本年度はじめて実施	64頁にも関連記事有り
77	体協時報 1968年8月号	59	議事録から	日韓高校スポーツ交歓競技会に關する件	
78	体協時報 1968年8月号	60	事務局日誌	7月24日日韓高校スポーツ交歓競技会協議会	
79	体協時報 1968年9月号	51	日韓高校スポーツ交歓競技会	ソウルで7競技を実施・競技会報告・日本選手回名簿	
80	体協時報 1968年9月号	33	体協より	ソウルで日韓高校交歓競技会	
81	体協時報 1968年12月号	72	事務局日誌	11月15日日韓高校スポーツ交歓競技会打合せ	
82	体協時報 1969年1月号	34	事務局日誌	12月12日1969年日韓高校スポーツ交歓競技会打合せのためKAC金理事来日／12月13日1969年日韓スポーツ交歓競技会打合せ(韓国・高体連・体協)	
83	体協時報 1969年4月号	8	昭和44年度日・韓高校スポーツ交歓競技会特別会計予算	3月14日第2回日韓高校スポーツ交歓競技会実行委	
84	体協時報 1969年4月号	43	事務局日誌	日韓高校スポーツ交歓競技会を駒沢公園を中心に7競技実施	
85	体協時報 1969年8月号	30	日韓高校スポーツ交歓競技会	6月6日第3回日韓高校スポーツ交歓競技会実行委／6月18日駐日韓国体育会新会長長効氏他新任あいさつのため委員会	
86	体協時報 1969年8月号	42	事務局日誌	委員長 前田豊の記述	
87	体協時報 1969年10月号	3	1969年日韓高校スポーツ交歓競技会を終えて	日本選手団 団長 保坂周助の記述	
88	体協時報 1969年10月号	4	1969年日韓高校スポーツ交歓競技会に参加して		

No.	資料名	参照頁	見出し	補足・説明	備考
89	体協時報 1969年10月号	4	競技の運営と概評	実施競技の成績と概評	
90	体協時報 1969年10月号	6	開会式の概要		
91	体協時報 1969年10月号	10	運営本部諸報告	式典・レセプション／輸送／宿泊・給食／競技会場／練習場の割当てと利用結果／医療・救護	
92	体協時報 1969年10月号	19	1969年日韓高校スポーツ交歓競技会に参加して	日本選手団 総監督 帖佐重幸の記述	
93	体協時報 1969年10月号	20	大会実行委員会と大会の準備経過	実行委員会の設置まで／実行委員会設置後の準備	
94	体協時報 1969年10月号	23	大会日程表	1969年8月17日(日)～19日(火)の日程で実施	
95	体協時報 1969年10月号	24	大会要項		
96	体協時報 1969年10月号	39	大会役員	会長 石井光次郎他	
97	体協時報 1969年10月号	40	競技役員	陸上競技／蹴球競技／バレーボール競技／バスケットボール競技／ハンドボール競技／軟式陸球競技／バドミントン競技	
98	体協時報 1969年10月号	42	日本選手団名簿	団長 保坂周助他	
99	体協時報 1969年10月号	47	大韓民国選手団名簿	団長 金鍾烈他	
100	体協時報 1969年10月号	52	競技成績		
101	体協時報 1970年9月号	53	1970年日韓高校スポーツ交歓競技会 公式競技成績	ことしの日韓高校交歓競技会は8競技を実施	
102	体協時報 1970年9月号	56	日本選手団名簿	団長 橋本朔他	
103	体協時報 1970年9月号	74	事務局日誌	8月12日日韓高校スポーツ交歓派遣実行委／8月13日日韓高校スポーツ交歓派遣打合せ／8月17日日韓高校スポーツ交歓競技会選手団結団式、選手団1陣出発／8月18日選手団2陣出発／8月19日日韓高校スポーツ交歓競技会(至21日)／8月22日選手団1陣及び帰帰国	
104	体協時報 1971年9月号	58	競技力向上が著しい韓国の「若いカ」-日韓高校スポーツ交歓競技会終わる-	競技成績等	
105	体協時報 1971年9月号	78	事務局日誌	8月11日日韓高校スポーツ交歓競技会実行委／8月16日1971年日韓高校スポーツ交歓競技会参加の韓国代表選手団先発隊来日／8月20日韓国選手団来日、日本体育協会会長主催夕食会／8月21日日本選手団団結式、日韓国両代表者会議及びレセプション／8月22日1971年日韓高校スポーツ交歓競技会開会式(至24日)／8月23日日韓国両代表者打合せ会、日韓国両代表選手団座談会、日韓国両代表選手団交歓のタペ／8月25日日本選手団結団式、日韓高校スポーツ交歓競技会について	
106	体協時報 1972年6月号	73	体協の動き	若いカとの交歓	
107	体協時報 1972年9月号	16	1972年日韓高校スポーツ交歓競技会	9競技に若いカをきそう	
108	体協時報 1972年9月号	19	日本選手団名簿	8月18日1972年日韓高校スポーツ交歓競技会日本選手団結団式、選手団出発／8月23日選手団帰国	
109	体協時報 1972年9月号	58	事務局日誌	実施要項／競技成績	
110	体協時報 1973年9月号	74	目立つた韓国勢の活躍-今年の日韓高校スポーツ交歓競技会	8月13日日韓高校大会先発者入国／8月16日選手団入国／8月17日日本選手団結団式、日韓国両監督会議、日韓高校大会役員懇談会／8月18日1973年日韓高校スポーツ交歓競技会／8月21日日韓国両代表者会議、日韓国両代表者夕食会／8月22日韓国選手団帰国	
111	体協時報 1973年9月号	85	事務局日誌	日・韓高校スポーツ交歓競技会に関する件	
112	体協時報 1975年1月号	64	体協の動き	12月3日日韓高校スポーツ交歓競技会両国代表者会議／12月4日日韓高校スポーツ交歓競技会両国代表者会議／12月5日日韓高校スポーツ交歓競技会両国代表者会議／12月8日大韓体育会代表帰国	
113	体協時報 1975年1月号	66	事務局日誌	競技記録	
114	体協時報 1975年7月号	74	事務局日誌	9月8日日韓高校派遣実行委員会	
115	体協時報 1975年10月号	46	ソウルで2年ぶり日韓高校交歓競技会	1976年の開催について・1977年以降の開催について	
116	体協時報 1975年10月号	62	事務局日誌	3月11日1976年日韓高校スポーツ交歓競技会韓国代表との夕食会／3月12日1976年日韓高校スポーツ交歓競技会会議	
117	体協時報 1976年5月号	67	体協だより	日韓学生選抜対抗戦(定期的に選手を派遣)	
118	体協時報 1976年5月号	70	事務局日誌	日韓学生選抜対抗戦(定期的に選手を派遣)	
119	体協時報 1976年10月号	42	1976年日韓高校スポーツ交歓競技会	6月4日朴韓国NOC委員長一行歓迎レセプション	
120	体協時報 1980年12月号	25	日本学生・バスケットボール連盟の歴史		
121	体協時報 1980年7月号	70	事務局日誌		

No.	資料名	参照頁	見出し	補足・説明	備考
122	体協時報 1981年8月号	71	体協だより	日・韓ジュニア交流競技会の開催について	第1回 日韓ジュニア交流競技会
123	体協時報 1981年9月号	82	体協だより	日・韓ジュニア交流競技会を開催 今年からの新事業である「アジア地域ジュニア交流事業の一環として...」	経過・記録の記載有り
124	体協時報 1981年9月号	84	事務局日誌	8月14日1981年日韓ジュニア交流競技会代表者会議	
125	体協時報 1983年12月号	75	体協の動き	大韓体育会役員招待について	
126	体協時報 1984年7月号	86	体協の動き	ソウルオリビピック組織委員長が来協	
127	体協時報 1984年10月号	65	体協の動き	日韓スポーツ交流に関する協定書について	
128	体協時報 1984年10月号	66	体協の動き	日韓スポーツ交流に関する協定書に調印	
129	体協時報 1989年10月号	50	1989年日・韓ジュニア交流競技会	石川県金沢市・松任市・根上町ノ競技成績	経過・記録の記載有り
130	体協時報 1993年10月号	20	第1回日・韓・中ジュニア交流競技会開催される	3ヵ国によるジュニア交流競技会を...8月25日から福島県で	
131	評議員会 理事会議事録 昭和59年度(1984年度)		昭和59年度第5回理事会議事録(1984年9月)	日韓スポーツ交流に関する協定書について	
132	日本アマチュアスポーツ年鑑1998	6	第1回日韓スポーツ交流事業の実施(国庫補助事業)	青少年・成人及びジュニア選手を対象とする相互交流(受入と派遣)	エンジョイスポート参照
133	在日本大韓体育会史	195	韓日高校交歓競技大会5年ぶり再開	日本側での認識及び呼称は「日・韓ジュニア交流競技会」	
134	在日本大韓体育会史	202	第5回李相栢杯争奪韓日学生籠球競技大会	1982年7月23日～25日(東京)	1981年8月13日～16日
135	バスケットボールの歩み 日本バスケットボール協会50年史	649	第1回李相栢杯日・韓学生選抜対抗戦	1978年6月26日～27日「東京、他」	
136	防長新聞 1963年8月22日	3	韓国へ高校野球選抜チーム	県高校野球連盟が派遣	
137	防長新聞 1963年11月29日	5	あす下関へ入港	韓国の高校野球チーム	
138	防長新聞 1963年12月1日	3	韓国選抜高校野球選手16名が来日	徳山での第一戦を飾る	
139	防長新聞 1966年7月22日	1	日韓高校生の交歓延期	韓国側のビザ出す だった北朝鮮技術者問題	
140	防長新聞 1967年7月18日	5	親善訪韓学生決まる	下関の高校生 民泊し交歓会や見学	
141	防長新聞 1967年8月2日	1	日韓親善の天任を...	下関訪韓高校生あす出発	
142	防長新聞 1967年8月6日	5	韓国高校野球チーム来日	防府などで親善試合	

注1 14. 30. 31及び32の各資料は外部機関発行による。それ以外の資料は全て(財)日本体育協会が作成したものである。

注2 「日本体育協会75年史」の発行は1986年6月である。

注3 日韓スポーツ交流の記述は上記資料以外には各地方体協及び競技団体の年史(年表)、機関誌を参照のこと。

注4 日韓高校交歓競技会は1968年～1976年迄実施された。

注5 1974年の上記競技会は朴大統領夫人の逝去に早退を要すために中止された。

注6 1969年以降の上記競技会の各報告は「体協時報」の当該年の9月号又は10月号を参照のこと。

注7 1982年以降の日韓(後、日中韓)ジュニア交流競技会の各報告は「体協時報」の当該年の9月号又は10月号を参照のこと。

注8 1981年～1991年迄の日韓ジュニア交流競技会の経過・記録・名簿を合本して保管有り。

注9 1998年以降の日韓スポーツ交流事業(国庫補助事業)の経過等は、「エンジョイスポート」、「アマチュアスポーツ年鑑」及び報告書を参照のこと。

注10 上記事業の第2回、第3回及び第4回の報告書は資料室に所蔵無しを確認(2005年10月5日時点)。

古園井昌喜先生を偲ぶ

スポーツ学部長
堀内 担志

人生は人との出会いで変わるとよく言われます。私も中学時代に古園井（旧大浜）先生が北九州市のM高校で教鞭（体育）を取っておられた時の出会いです。

私が中学時代（1年間）体操部に籍を置いて練習に励んでいる時に、地元のM高校での練習中に「野球部員が練習出来ないのでは何とかしてください」と高校の体育館に相談に来ました。即座に先生は体育館を飛び出して、大声を張り上げて「こらー、グラウンドをあけんかー」と叫びながらグラウンドに行くと、そのグラウンドを占拠していた部外者の者が雲の子を散らすように一斉に隅の方に行き、「先生ごめん、ごめん」と言っていました。

又、夏の出来事です。水泳部が練習中に体育館に来て、外部の者が石鹸を着けてプールに飛び込んで困るとの苦情の報告でした。これにも即、行動を起こし、「お前ら、何を考えとるんじゃ。ここは風呂場ではなくプールだぞ…」この時の先生の毅然とした態度に私は、中学生ではあったが、数回の先生としての指導力及び責任感の強さが胸をジーンとさせました。

その後、私も大学を卒業して小さい頃からの教員の夢が叶い、九州共立大学での助手生活が始まりました。九州共立大学での教員生活をしながら自由ヶ丘高校（旧八幡西高校）の体操部の監督として全国大会に毎年引率した中で、和歌山国体（昭和46年）に参加した時は、親父（古園井先生）が一緒に宿（民宿）で教員のノウハウを熱く語られました。この時に今でも私が利用するサウナ風呂を教えていただきました。（裸の付き合い…）

その後、親父が下関市立大学に奉職されて、北九州地区大学体育連絡協議会の会議で再会し、古園井先生の学校へ非常勤のお手伝いをする事になりました。この間、色々な事を教わり古園井先生が退職され縁あって九州共立大学の非常勤をお願いし、さらにゴルフの会（古園井会）を立ち上げゴルフ・教育・人生を語らいながら、我々後輩たちに熱く御指導・御教授いただきました。

平成16年に九州共立大学の改組の話が持ち上がり、体育系の学部を作る話があり、色々御相談・御助言をいただきながら平成18年4月にめでたく九州共立大学スポーツ学部スポーツ学科として船出しました。

この間、色々な難局を乗り越えてきましたが、親父の志の途中でありながら19年1月6日永眠されました。1月4日の夜親父の家に行き、二人で話し最後は声かすかにこのお茶（八女茶）を飲んで行けとしきりに私に勧めるので、美味しくいただきました。この時すでに親父は死を覚悟しておったのでしょうか。これは後で考えると「俺はこの茶を飲みたくても自分の力で飲めない。頼むぞ堀内君俺の後をお前に任せるぞ……。」

福原弘之理事長の夢をかなえ、学園・大学・教職員・皆仲良くして何があってもスポーツ学部スポーツ学科を完成し、全国に、いや世界に教育者・研究者、そしてアスリートを育ててくれと言っていたように思われます。

古園井先生、今年で3期生を迎える事になりました。前途多難ですが、皆で力を合わせ完成のあかつきには先生の元に必ずや吉報が出来るよう頑張りますので、天国から見守っていてください。

スポーツ学部紀要も2号が出版できるようになりました。この号をかりて先生への追悼号にさせていただきます。